

オリンパスメディカルシステムズ  
超音波気管支鏡ガイド下針生検を実現する  
「超音波気管支ファイバービデオスコープ  
OLYMPUS BF TYPE UC260FW」発売  
(009/2/23)

オリンパスメディカルシステムズ(株)は、肺がんのリンパ節転移の確定診断を行うための「超音波気管支鏡ガイド下針生検」を実現する「超音波気管支ファイバービデオスコープ OLYMPUS BF TYPE UC260FW」(以下、「BF TYPE UC260FW」)を3月2日に国内で発売する。

<主な特長>

● 「超音波気管支鏡ガイド下針生検」を実現

電子コンベックス走査方式により穿刺方向全域の画像を表示する「BF TYPE UC260FW」と専用のディスプレイ吸引生検針との組み合わせにより、超音波画像下でリンパ節の位置を確認しながら検体採取が可能。また、「BF TYPE UC260FW」は従来機種より0.2mm広い内径2.2mmの鉗子挿通用管路を確保することにより、吸引生検針の挿入性や吸引性能の向上を図っている。

● 同社製の「EU-ME1」をはじめ複数の

超音波観測装置との接続が可能  
着脱式の接続ケーブルを変えることで、従来機種  
の同社製小型超音波観測装置「EU-C2000」以外  
にも複数の装置との接続が可能。消化管用など同  
社製の各種超音波内視鏡と互換性を有する「EU-  
ME1」のほか、アロカ(株)製の超音波診断装置「  
ProSound α5」および「ProSound α10」には、  
2009年4月から接続可能になる予定。さらに、スコ  
ープ本体と接続ケーブルの分離により、内視鏡洗  
浄消毒装置への設置が簡便になった。

● 高画質な超音波画像を実現

「EU-ME1」やアロカ(株)製の超音波診断装置と  
の組み合わせにより、表示範囲が従来機種より10  
度広い60度の高画質な超音波Bモード画像に加  
え、血管とリンパ節の識別をサポートする高感度  
なドプラ機能にも、血流の有無のほか血流の方向  
を色分けして表示するカラーフローモードを採用し  
ている。さらに、超音波周波数は5/6/7.5/10  
/12MHzから選択が可能。(次の頁に続く)



オリンパス

「超音波気管支ファイバービデオスコープ  
OLYMPUS BF TYPE UC260FW」  
先端から出たディスポーザブル吸引生検針